

「平成 29 年度 退所児童等支援事業 全国セミナー」に参加して
 特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 小林純子



2018年3月1日(木)～2日(金)に東京都で行われた、「平成29年度退所児童等支援事業 全国セミナー」(主催:社会福祉法人 全国社会福祉協議会)に参加してきました。全国から200人ほどが参加し、退所児童などの支援について学びました。参加できなかった施設の方、関係機関などへもお知らせしたく、内容を紹介します。

1日目の行政説明では、厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課課長補佐田野剛氏より、①平成28年児童福祉法改正について、②特別育成費、大学等進学支度費、就職支度費の増額 措置延長など、アフターケアを推進するための自立支援に関する施策について ③「新たな社会的養育の在り方に関する検討会」で「新しい社会的養育ビジョン」がとりまとめられたこと④都道府県に対して、施設のケア単位の小規模化と里親やファミリーホームなど家庭的養育の推進をするための計画(平成27年度～平成41年度)を策定するよう依頼していること等の説明がありました。④の内容は、平成41年度までに本体施設、グループホーム、里親などを各概ね3分の1にし、児童養護施設の本体施設はすべて小規模グループケアにすることとなっています。⑤平成30年度予算案の概要の説明がありました。内容は、児童虐待の発生予防のために、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行う「子育て世代包括支援センター」を全国展開すること、児童相談所の体制強化と設置促進、一時保護所の整備推進、被虐待児への支援推進などを主な事業とするとのことでした。

次に、全国社会福祉協議会が平成29年度赤い羽根福祉基金助成事業として行っている「社会的養護施設等退所児童等支援におけるネットワーク構築支援事業」の報告がありました。

一例目は、宮城県の「NPO法人ほっぴすてっぷ」で、「社会的養護施設・退所児童支援事業所連携モデル事業」として、セミナーの開催などを通じて、施設と退所児童など支援事業所の連携を図ることを目的とした事業です。2018年1月26日・27日に支援者・養育者向けのセミナーを開催し、2日間でのべ161名の参加を得たこと、また、ネットワーク構築に向け、カード配布やSNS利用などツールを模索していることなどが報告されました。今後の課題としては、ニーズ調査の必要性、当事者だけでなく支援者も集える場の設定、全国的なネットワーク構築の必要性などを挙げておられました。

二例目は、神奈川県の「NPO法人フェアスタートサポート」が実施している「社会的養護施設における退所に向けたインケアの質の拡充モデル事業」で、就労支援に関わったケースで不調になってしまったケースを分析し、今後施設等のインケアの充実を図ることを目的とした事業です。母体が「株式会社フェアスタート」であり、「NPO法人フェアスタートサポート」をうまく組み合わせて就労支援事業を展開しているのが特徴のようでした。2013年から活動を始め、今日まで78名の就職あっせん実績を持ち、100社以上の企業とネットワークを持っているとのことでした。成功例だけでなく、不調になってしまったケースを分析し、今後につなげるという視点は重要であると思いました。福祉分野だけで退所児童等支援を行うのではなく、他分野との連携で新たな展開が期待できるかもしれません。発表者の「社会的養護の子どもたちが就労に苦勞しているのは『かわいそう』ではなく、社会の損失であり『もったいない』のだ。」「企業には社会的養護の子どもたちの現状を理解してもらおうこと、施設入所中にトライ＆エラーの機会をもっと持つことが必要、施設と企業のコーディネーター役が退所児童等支援事業者の役割ではないか」という言葉が印象的でした。

2日目は、ずっと施設で育ち、職員に反抗しながらも紆余曲折を経て、現在自分が育った施設で働いている女性と、幼時から里親に愛されて育ったのに、思春期になって実親との楽しい生活を期待して実親の元に戻り、自分が親になって初めて里親の気持ちに気づいたという女性、二人の経験を聞きました。後者は現在里親制度普及の為に各地で講演をしているとのことでした。退所児童などを支援している人たちにとって、当事者である二人のお話は、子どもの気持ちや権利をどのように守っていくかを深く考えさせられるものでした。

研修を通して再確認したこととして、仙台市児童養護施設等入所児童就業支援アフターケア事業を開始して1年半が経ち、インケア、アフターケアの課題がだいぶ整理されてはきましたが、そのような課題を行政、施設や里親などと連携しながら取り組む一方、社会への発信、企業への働きかけを強化し、子どもだけでは解決できないお金の問題、住居の問題、保証人の問題、就労の問題などを社会的課題と認識してもらうことが重要と思われました。

つばさ No.4

発行：仙台市児童養護施設等入所児童就業支援・アフターケア共同体
 〒981-0954 仙台市青葉区川平 1-16-5 スカイハイツ 202 TEL 022-341-7062
 発行日：2018年3月15日

平成28年度に開始した「仙台市児童養護施設等入所児童就業支援・アフターケア事業」は、平成32年度までの複数年契約となり、事業を継続できるようになりました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

仙台市の児童養護施設等を退所した方、里親の元で育った方の交流会を開催します！ 今回は施設に入所中の高校生の参加も可能です。

先輩の話を聞こう！

仕事のこと、生活のこと
 いろいろ聞いてみよう

作って食べよう！

たこ焼き、お好み焼き
 他に何ができるかお楽しみに

交流会

困りごと相談

何か今困っていることが
 あれば相談してね
 お金をかけずに専門家に
 相談することもできます

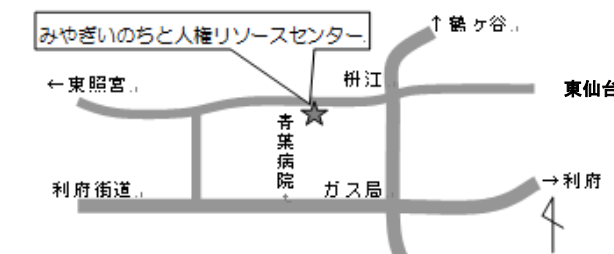


日時 2018年3月28日(水) 29日(木)

11:00~14:00

場所 みやぎいのちと人権リソースセンター
 〒983-0836 仙台市宮城野区幸町 4-7-2

<場所のご案内>



対象者 おおむね25歳までの、児童養護施設等に入所している高校生及び退所した方、里親の元で養育された方

参加費 無料

申込み 3月26日(月)までに、電話、FAX、Eメールでお申し込みください。

TEL 022-341-7062 (時間: 平日10:00~17:00)

FAX 022-279-7210 Eメール: yougo_af@shirt.ocn.ne.jp

☆次回の交流会に参加希望の対象者へ

年3回交流会を行う予定です。
 次回開催のお知らせをお送りいたしますので、上記申し込み先へご連絡ください。

仙台市営バス
 青葉病院・幸町市民センター入口下車徒歩2分
 仙台駅バスプール19番乗り場
 東仙台営業所前行 25分~30分



平成29年度(11月~2月)実施状況



1. ソーシャルスキルトレーニング

テーマ・講師	実施日 実施場所	参加数
「性のこと・妊娠から出産まで」	11月11日(土) 小百合園	10名
「大切にしたい性と命②」 NPO法人ハーティ仙台 代表理事 八幡悦子		
「SNS・インターネット」	11月30日(木) せんだんの家	1名
「知っておこう!スマホと『契約』」 子どもリーガルサポートチーム 花島伸行		
「契約全般、社会保険・税金、労働トラブルの実態と予防」	1月21日(日) 小百合園	6名
「『働く』ルールを身につけよう!」 子どもリーガルサポートチーム 花島伸行		
「契約全般、リスク管理」	1月28日(日) 仙台天使園	3名
「一人暮らしをはじめる前に・・・アパート・マンションを借りることに」 子どもリーガルサポートチーム 勝田亮		
「生活習慣」	2月10日(土) 小百合園	3名
「一人暮らし直前!必要なことを学ぼう!」 特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 代表理事 小林純子		
「契約全般、リスク管理」	2月11日(日) 小百合園	3名
「一人暮らしをはじめる前に・・・アパート・マンションを借りることに」 子どもリーガルサポートチーム 北島みどり		
「金銭教育」	2月18日(日) 仙台天使園	2名
「一人暮らしをはじめる前に・・・生活上のお金のこと」 子どもリーガルサポートチーム 坂口真理子		
「金銭教育」	2月24日(土) 丘の家子どもホーム	4名
「一人暮らしをはじめる前に・・・生活上のお金のこと」 子どもリーガルサポートチーム 花島伸行		
「性のこと、妊娠から出産まで」	2月25日(日) 小百合園	7名
「大切にしたい性と命③」 NPO法人ハーティ仙台 代表理事 八幡悦子		
合計		39名

ソーシャルスキルトレーニング「一人暮らし直前!必要なことを学ぼう!」ワンポイント

お金の管理について

社会人として働くようになると、まとまったお金がお給料として毎月入ってくるようになります。嬉しいからといって、「欲しい!」と思ったものを次々と買ってしまおうと、毎月必要になってくる食費や光熱費、家賃などが払えなくなってしまうので、気をつけましょう!

急にお金が必要になる時に備えて、少しずつでも貯金する習慣をつけることも大切です。一方で、自分の楽しみのためにも、少しは使って、リフレッシュすることも忘れずに!



ソーシャルスキルトレーニング参加者の声・様子

声

- 4月からひとり暮らしになるので、心配なことを質問し、答えてもらったので安心した。
- アルバイト先から、明細はパソコンで見ると言われていたが、どうやったら見られるのか分からなかった。
- 学校の授業で習ったことも入っていたのでわかりやすかった。

様子

- ソーシャルスキルトレーニング終了後、参加した児童が講師やスタッフに話しかけてくれた。最近の学校やアルバイトの様子について話してくれる児童が増えてきた。
- 講師の問いかけに応じる等、積極的に学ぼうとする様子が見られた。

<ソーシャルスキルトレーニング実施施設職員の声>

男女で違う悩みも出てくると思うので、男女別でソーシャルスキルトレーニングを実施することも検討してほしい。

児童と職員がソーシャルスキルトレーニングと一緒に参加し、共通の知識として学び、普段からの施設の生活に役立てていきたい。

分かりやすくポイントをしばって教えてもらって良かった。

特別支援学校に通っている児童もいるので、職員からフォローアップさせてもらった。このような雰囲気ですごく良かった。



2. 職場見学・体験

企業名	見学・体験先	日程	参加数
特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ	同左	29年12月16日(土)	2名
公立学校共済組合仙台宿泊所	ホテル白萩	30年2月24日(土)	1名
	計		3名

<職場見学・体験を実施しての児童の声>

パワーポイント等を見るのが好きなので勉強になった。お客さんと話すとき少し緊張した。(研修会の受付・準備・研修参加)

初めてのホテル見学で分からないことが多かったが、ホテルの仕事内容などを聞いて良かった。(ホテル白萩見学者)

これまで子どものことについての情報をこんなに詳しく聞いたことがなかったため、興味深かった。また機会があったら話を聞きたい。(研修会の受付・準備・研修参加)



<事務局より>

問題に直面した際に役立つ知識を知っておいて欲しいという思いから、ソーシャルスキルトレーニングを実施しています。児童養護施設を出た後、家に戻る児童はごく少なく、多くは、寮付きの職場に就職、児童自立援助ホーム入所、ひとり暮らし、グループホームなどを選択します。その際に抱える問題として、仕事を辞めると住む場所もなくなってしまう場合があること、アパートを借りる時に保証人の問題があることなどです。また、敷金や礼金など、一時的に大きな出費があるため、時間を惜しんで、懸命にアルバイトをしているということが分かってきました。自立後に頼れるところが少ないため、何とか貯金しようと頑張っているのです。

たくさんの児童にソーシャルスキルトレーニングを受けてもらいたいのですが、そのような事情で参加人数は多くありません。そんな子どもたちを応援しながら、何とかお金の心配をせずに自立の道を歩んでいけるような社会になってほしいと思います。

また、実施時間については、施設の希望を優先して夜間にしたり、少ない人数でも講師の理解を得て実施したりと工夫したり。職場見学・体験も、児童の希望する職種の事業所を増やすことや、共同体自体でも、職業選択のため様々な職種や現場を準備することを始めたりして、何とか参加しやすい工夫をしています。



***** 社会的養護自立支援事業 が始まりました *****

この事業は、現在「仙台市児童養護施設等入所児童就業支援アフターケア事業」を行っている「一般社団法人パーソナルサポートセンター」と「特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ」の共同体が受託して行うことになりましたので、仙台市と宮城県が管轄している施設や児童相談所などとの連携もスムーズに行えるようにしていきます。(主管 宮城県子育て支援課 子ども育成班)

事業事務局所在地・連絡先 TEL&FAX 022-291-5066

〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4-7-2 みやぎのちと人権リソースセンター内